

平成28年度第5回豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統合検討委員会

日 時	平成29年2月21日（火） 午後6時30分から午後7時55分 まで
場 所	豊明市中央公民館 ホール
出 席 者	小川雄二委員長、三冶金行副委員長、三谷聖也委員、浅野薫史委員、 岸洋行委員、近藤木卯治委員、屋良桂子委員、丸尾敬吾委員、伊藤昌 司郎委員
欠 席 者	原田義英委員
事 務 局	市長、副市長、教育長、教育部長、学校支援室長 行政経営部長、とよあけ創生推進室
傍聴の可否	可
傍聴の有無	有（22名）
議 題	仮に統合した場合の小学校イメージに関するアンケート結果につい て

議 事 録（要旨）

I 委員長あいさつ

少しずつ春の兆しが見えてまいりましたけれども、この委員会は重い課題を課せられておりまして、春を迎えられるかどうかは、私たちの努力にかかっていると思います。委員会を重ねることにより、委員から多様な意見が出てまいりました。今日は、保護者の皆様のアンケートをしっかりと検討させていただいて、私どもの意見をまとめる、そんな作業に入ります。どうぞ今日もよろしく願いいたします。

II 市長あいさつ

先月、両校の現在の児童の保護者の皆様、未就学の子どもの保護者の方にアンケートをとりました。この後、内容について説明いたしますが、残念ながら回収率はあまり高くありませんでした。本日、回答の傾向について検討していただくわけですが、唐竹小と双峰小、あるいは現在の保護者と未来の保護者の間で、それぞれの傾向としては、かなりの違いがあると思います。

今回のアンケートを見させていただいて、基本的な状況について、大きく誤解されたまま回答されている保護者が多いということがわかりました。例えば、仮に両校が統合した場合、学校では無くなる方の建物、校舎をどうするんだというお話ですが、防災拠点として残す、あるいは地域活動の拠点として使う、その他、地域の皆様がより良い暮らしをしていけるように、公共機能のある施設として維

持する、20年後ぐらいに学校の建替えの問題が生じるまでは、そういった形で利用していくという説明を、保護者の方との意見交換会でもずっと説明してきましたが、多くの方は建物ごと無くなるという誤解をされたまま、アンケートに答えているということがわかりました。

こうした部分については、Q & Aを作成して、わかりやすい形で保護者の皆様に配布して、理解を深めていただく必要があると考えております。

今日の検討委員会については、アンケートの中身そのものの検討をいただくことが、一番重要な部分でございます。慎重な審議、あるいは活発な審議をお願いしたいと思います。

Ⅲ 議題

仮に統合した場合の小学校イメージに関するアンケート結果について

小川委員長 アンケート結果をまとめた資料1と、現物を全てコピーしたものがそれぞれの委員の机の上に置かれています。説明に入る前に、短時間ではありますがざっと目を通していただきまして、どのような状況だったのかということ、それぞれ把握していただければと思います。15分ほど時間をとらせていただきます。

(各委員資料確認)

小川委員長 それでは、全体的な結果について、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

小川委員長 委員の皆さん、ご意見ご質問ございますか。

なお、このアンケートは公表を前提としておりませんので、内容をそのまま引用するのではなく、全体的な意見という形で、ご意見いただければと思います。

委 長 アンケートの回収率が悪いとの話がありましたが、何か問題があつて悪かったのでしょうか。

事 務 局 何度か開催した意見交換会を通じて、委員会での検討状況の説明をさせていただいたのですが、参加していただける方も各回20名程度ということであり、全ての方にご理解をいただいていないという現状があります。

今回、アンケート結果も出ましたので、その報告も含め、誤解を生じている部分についてもQ & Aを作成し、ご理解いただけるように、周知していきたいと考えております。

委 員 間米に住宅街ができると聞いていますが、間米区は3小学校に通学区が分かれますが、どの辺にどれぐらい増える予定ですか。

副市長 間米の区画整理につきましては、島川の交差点から衛生大方面に入った20.5ヘクタールを計画しております。どれぐらい増えるかというのは、都市計画上の1ヘクタール当たり60人で計算しますと、1,500人ぐらいとなります。

ただし人口が増えるのは、まだ先の話となるかと思われまます。現状では、発起委員会ができて、とりあえず85%の方々が発起されたという段階で、これから法的な手続き等もありますので、まだ5年10年は掛かるのではないかと思っております。

市長 市は区画整理を後押ししている立場なので、早くできるのにこしたことはないのですが、残念ながら過去の経験からいくと、住宅が建設されるのは、10年より先になると見込んでおります。現在、区画整理に対して慎重な意見や、また反対されている方もおられます。そういった方々が合意に向かっていたいただけるのかというところは、まだ時間を要するだろうと考えております。

委員 アンケートの回収率が低いということについて、理由が分からないとか、保護者の意識が低いのではとか、統合検討について理解していただいていないのでは、という意見等があるのですが、平成27年に唐竹小で行った統合の賛否を聞いたアンケートでは、保護者の78%の方にお答えいただきました。色々条件が違うとは思いますが、決して保護者の意識が低いのではないと思えます。

この後、統合反対の署名を提出させていただくのですが、今日現在で3,500以上の数が集まっております。これは集める側が、個々に訪問して、お願いして説明して集めた数であります。今回のアンケートは、保護者に学校を通じて配っただけで、回収する努力というものが成されてない気がしてなりません。私も提出を忘れていてここにあります。中を見ると、提出期限が文の中に隠れており、期限が意識づけられなかったのかなど。また、アンケートの中には学校が統合された場合のイメージ概要しかなく、委員会で配られたものは、何ページもありカラーで印刷されている詳しいもので、それはホームページで見れるという案内はあるのですが、一番裏表紙であり、さらにホームページのアドレスも大変長いので、これを打ち込んでまで見る保護者が果たしてどれだけのいるかと思われまます。今の時代、QRコードでも貼っておけば、すぐスマホで確認できます。

アンケートは配るだけではなく、回収して意味のあるものなの

で、そういう努力をなされるといいのではないかと思います。

小川委員長 アンケート回収についてのご指摘をいただきました。すでにこのアンケートの回収期間は終わっていますが、例えば、期限を決めてもう1回アンケートを行うことは可能だと思いますか。回収率を高めることができると思いますか。

委 員 アンケートは、少しでも多く回収して、いろいろな意見を集めることが大事であり、回答していないから、何も考えていないわけではないと思います。潜在的なものを引き出すのがアンケートだと思っておりますので、次回アンケートをする機会があれば、このようなことに気を付けていただけると、さらに良いアンケートになるのではないかなと思います。

小川委員長 アンケートの中で、区画整理がされれば児童数が増えるのではないか、というご意見がいくつかありましたけれど、市の回答から、かなり先のことになるので、それはあまり考えなくてよいと理解してよろしいでしょうか。

事 務 局 そのあたりの説明も意見交換会の時にしておりますが、すべての保護者の方にお知らせできていない状況にありますので、今回のアンケート結果の報告と併せて、間米の区画整理についても、10年以上先になる見込みであるというQ&A等を作成して、状況を知っていただく努力をしたいと思っております。

小川委員長 今回こういった形で意見が出てくるのが、周知ができていないということの、一つの現れであるという理解でよろしいでしょうか。

事 務 局 間米の区画整理もそうですし、それ以外でも、少し誤解を生じているところがございますので、それは我々の説明不足や努力が足りないところがございますので、まずは状況を知っていただくところから、しっかりとやっていきたいと思っております。

委 長 アンケートの中に、「通学距離が遠くなる」という回答が大変多くありましたが、学区の見直しとまではいかないかもしれませんが、そのあたりはどのような考えですか。

事 務 局 やはり、通学の安全、通学距離の問題というのが、非常に保護者や児童の皆様が不安に感じる所になりますので、そういったところも含めて、通学距離が遠いところや、安全が確保できないところは、ある程度柔軟に考える用意がございます。

市 長 意見交換会でも、双方の小学校の保護者の皆様から、質問が出

ており、仮に統合するという方向に市が結論を出した場合において、その次の段階として、通学距離が非常に長くなる地域については、そういったことも検討する余地は十分にあると思います。その場合には、改めて話し合いを進めさせていただくと説明させていただきます。

小川委員長 意見交換会に出られていない方が指摘をされていると思いますので、先ほどと同じように、仮に統合した場合の通学についても、Q & Aという形で、いまの内容をお知らせさせていただくことが必要だと思います。

委員 双峰小は外国籍の児童が多いということで、学校の評判が悪いというアンケートの回答がありましたが、両校の外国籍の児童がどれぐらいいるか、参考にお聞きしたいと思います。

教育長 外国籍の児童が何人いるかの資料はないのですが、外国籍で日本語指導が必要な児童は、双峰小で31名、唐竹小で18名、合計49名です。両校とも豊中に進学しますので、日本語指導が必要な子が豊明市で100人程度いるのですが、80数名が豊明中学校区となっています。

委員 外国籍の子は37名で、そのうち、来年度日本語指導が必要な児童は、18名です。

委員 双峰小は外国籍の子どもが60名ぐらいです。

委員 そのあたりで不安を感じている保護者の方が多いと感じますが、小川委員長 児童数に占めるの割合からいくと、率はどれぐらいになりますか。同程度ですか。

委員 双峰小の方が少し高いです。

唐竹小の外国籍の児童は、日本語ペラペラで、学級委員をしたり、応援団長とかをする子どももいます。

小川委員長 外国籍の方についての不安は、アンケートの中で見られましたが、仮に統合した場合に、日本語教育を充実させるという内容が含まれていたと思います。先ほどのようにQ & Aという形で、外国籍の方たちへの指導に関しても、仮に統合した場合には、より充実するという内容を、市として説明する必要があると思いました。

委員長 アンケートの中で、学校がどちらか無くなることによって、治安が悪くなる、休日のグラウンドなど遊び場がなくなるなどの意見がありますが、跡地の利用はどう考えているのか、その辺を聞

きたいと思います。

市長 基本的には、現在、検討をしていただいていることは、両校の児童、あるいは将来通う子どもたちにとって、より良い学校環境にしていくためのことを検討していただいているわけですので、仮に統合した場合に、残りの施設をどのように利用していくかということは、正式に検討したことはありません。

ただ、仮に統合した場合、子どもたちに全く関係のない施設にするべきではないのかなと、もともと学校であり、コミュニティの中心でもあることを踏まえれば、豊明市全体とし子育てを進められる、あるいは子育て環境を後押しできる、そういった施設に転用するのがふさわしいのかなと思っていますけれども、具体的にどうするのかというところまでは検討しておりません。

ただ、これからも運動場で遊ぶことができるようにしますし、体育館が災害が起きた時の避難所であることは間違いなく、むしろ学校でなくなった場合の方が、より地域の皆様には開放しやすくなるかと思っています。

小川委員長 唐竹小の未就学児のみの世帯の結果では、統合する必要がないという回答結果が比較的少ないのですが、就学児になりますと55%と大変高くなります。そのあたりは、愛校心や学校に対する愛着や信頼など、そういったことを育ててきた教育の成果であると見ることができると思う反面、保護者の方、児童の皆さんが、現状のままでありたいと思うことは、ある意味、当然のことだと思います。

ただ、その愛着などにとらわれた回答であったりしたときに、将来に責任が持てるかということ、まだ十分判断できないと思います。

そういう点から、教育のプロである学校の先生方、実際に教育に当たっているたくさんの先生がいらっしゃると思いますので、双方の教職員の皆さま、場合によっては、豊明市全体の先生方に、このまま行くべきなのか、それとも統合した方がより良い教育ができるのか、または統合してしまったら教育の水準が下がるのか、そのあたりを小学校教育のプロであられる教職員の皆様にアンケートを取るというのは、客観的な答えを求めるうえで、非常に重要なデータになるのではないかと思います。

事務局 前回の検討委員会でも、先生のアンケートが必要ではないかと

いう意見をいただきましたが、まずは保護者の方を先行させていただきました。

ただ、保護者の方は、常に教育現場にいるわけではないので、判断材料としては、完璧ではないのかなと考えております。常に子どもの教育現場に触れていらっしゃる学校の先生の意見とか考えかたを聞くことは、いろいろな面から考えて答申を出していただく上で、大変重要かと思っておりますので、どのようなアンケートがいいのかということも踏まえて、事務局で考えさせていただいて、実施させていただきたいと考えております。

小川委員長 該当する2校だけではなく、近隣あるいは豊明市全体の小学校の先生方にお示しをいただいて、将来の子どもたちの教育を真剣に考えておられるだろう先生方に、統合についてお伺いしていただけると、委員会としては非常に大きな参考となるかと思っております。

子どもに対するアンケートというか、意見聴取についても話題に上ったことがございますが、これについてはいかががでしょうか。

委員 小規模校と適正規模校について、何か比較できるものはないかといろいろと調べました。まず年に2回、学校評価アンケートというのを保護者に対して行っているようですが、これは保護者の主観的な意見になるようなので、さらにほかはないかと調べてみると、豊明市は毎年QUアンケートというのを児童生徒に行っているようで、これは学校の満足度、学校生活の意欲とか、そういった項目があるようです。これならば、唐竹小とほかの適正規模校では、どの程度の違いがあるのか計れると思っておりますので、検討の資料の一つになるのではないのかと考えますが、資料として提出していただけるものなのでしょうか。

学校支援室長 QUアンケートの結果を資料として提出することはできますが、具体的な学校名を出すことには、考慮が必要であると思っておりますので、学校規模のみの表示の資料になると思っております。

小川委員長 では、その資料は、次回お示しいただくということをお願いします。

委員 保護者のアンケートを見ると、唐竹小の保護者は「運動会や学習発表会に活気が出る」にイエスと言っていません。今でも活気があって一生懸命やっているという現状ですので、唐竹小は今のままでいいと思っています。

小川委員長 委員から新たな提案を出していただきましたが、子どもたちに対するアンケートはいかがいたしましょうか。実施するとしたら、時間的な制約や方法についていろいろありますが、ご意見はございますでしょうか。ご意見がないのであれば特に実施しないということにいたします。

今回の保護者アンケートを受けて、これから委員会として結論に近づいていくうえで、考えなければいけないことなど、お気づきのところはございますでしょうか。

事務局には、もっともな意見は意見として頂戴し、誤解されているアンケートの回答については、Q & Aという形でまとめてお答えするという必要がありますので、よろしくお願ひします。

市長 冒頭でも説明しましたが、仮に統合する場合に、建物そのものが無くなると誤解されている問題について、実は非常に危惧しております。

学校は地域交流の中心であることは間違いなく、地域の住民にとっても非常に重要な施設です。特に防災の観点からすると、体育館が避難所指定になっており、そこで食料物資等を配給することになりますので、地域の住民の皆様にも施設がなくなると誤解されているとなれば、何らかの形で誤解を解く必要があると、また学校の在り方についてお話をさせていただく必要があると思っています。

委員 仮に統合した場合に、どちらの学校に統合するにしても、通学路の安全と安全点検は、必ず行っていただき、安全面について、市の方にはバックアップをしていただきたいと思います。

(次回開催について及び委員の交代について)

事務局 先生方へのアンケートについて、案を事務局で作成し、検討委員会の場ではなく、書面でご意見をいただく形で実施していきたいと考えていますが、そういった形でよろしいでしょうか。

小川委員長 そうしないと実施時期が難しいのですね。

事務局 年度末から年度初めにかけては、皆さんお集まりいただくのがスケジュール的にも難しい状況になりますので、書面という方法で進めていきたいと思ひます。

小川委員長 委員の皆さん、それでよろしいでしょうか。それではそのような形でお願ひします。

事務局 それでは、スケジュール等も含めて、文書をお送りしご意見等

いただきますので、よろしくお願いいたします。